

「里山集落」における小規模有機農業コミュニティ形成の可能性に関する実践的研究

発表者

鳥取環境大学・人間形成教育センター・教授 東樋口 護

概要： 里山集落の保全を、外部からのボランティアなどの活動によるのではなく内生的に自然共生型の有機農業など新農業担い手のコミュニティ形成を行うことによって実現することが出来るかどうかを探るものである。今まで、八頭町などにおける地域の新しい農業の取り組みについては、有機農業・自然派農業・伝統農業を目指す農業者、消費者に直結する供給の工夫、有機肥料飼料の生産、若い農業起業家などの調査で明らかにしてきた。本研究は、これらの新しい農業者のネットワーク形成あるいはコミュニティ形成が持続的な地域営農となりうるのか、その必要性と可能性を実践的に調査研究する。

目的： 地域の小規模営農を持続可能なものにし、里山再生・中山間地域の活性化につなげることが可能なのか、そのために必要な取り組みは何なのかを地域の営農者の研究会などを通して探る。

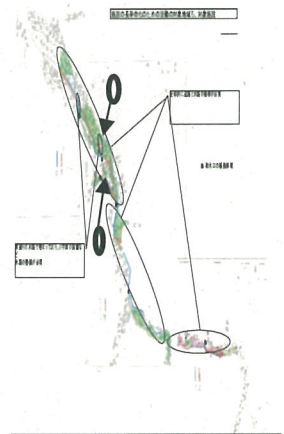
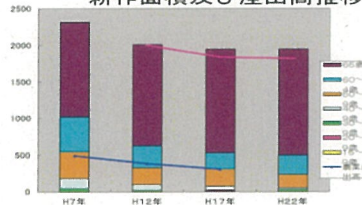
研究方法：

①「新農業者（実践者・指向者等）」の、協働・協力と事業展開に関する研究会（現在 14, 5 名、進行によって増加）。ここで、新農業者の共同とその事業展開を検討する。



②具体的な「里山集落」を選定し、持続性・環境保全について研究し、ビジョンを策定する（志子部）。③新農業者の活動・事業展開について、先進事例

農家従事者数と耕作面積及び産出高推移



志子部「有機の里づくり」

（出来れば失敗例も）の視察・調査を行う。④小規模営農者

支援のためのボランティア組織の必要性・可能性を検討する。

現段階の結果とまとめ：

①地域の耕作面積・従事者数は減少し、耕作放棄地も増加している。②その一方で、若者の参入・退職兼業農家などによる新しい積極的な営農も始まっている。③都会のグリーンコンシューマーとネット販売などで結びつくことによる販路確保、安全安心での農産物をレストラン・料理店などを通して地域内で生産者と消費者が結びつく取り組みなどが見られ、小規模経営の供給量がまとまらず安定しないという不利を、消費者とのダイレクトに結びつく方向か、それぞれの自律性を確保しながら、緩やかな統合を図り安定化規模を目指す方向の模索が重要。④安全安心・高品質を目指す農業者にとって、良い作物を作ることと同時に消費者との顔の見える関係からその喜びを感じることも、重要な「働く喜び」を形作っている。⑤現状では、小規模農業への定年退職者、脱サラ、新卒などの参入が見られるものの、種々の補助金制度などによってかろうじて持続可能な状況にある。小規模農家等を地域で支える協働支援組織のモデルビルディングと設立検討が求められる。

【特許登録／出願情報】なし

【来場者へのメッセージ】小規模地域農業の持続可能性は、中山間地域の展開にとっても、地域環境の保全にとっても大切な課題です。多くの実践者の知恵を結集することが求められています。

連絡先：鳥取環境大学 人間形成教育センター 教授 東樋口 護

鳥取市若葉台北 1-1-1 TEL. 0857-38-6700